

新技術・情報名	温州ミカンの完熟栽培における浮皮防止法
場所名	長崎県果樹試験場
<p>1. 成果の内容</p> <p>1) 技術・情報の内容及び特徴</p> <p>温州ミカン（原口早生）の完熟栽培は、樹上におくことで果皮の着色、糖の上昇、減酸などの効果が期待できる。しかし、長くおくことで浮皮果の発生が問題になる。そこで、浮皮発生軽減を摘果方法、樹上に残す果数割合やクレフノン、フィガロン散布などの方法で検討した。</p> <p>(1) 枝別摘果区と全面摘果区では果実品質にあまり差がみられなかった。</p> <p>(2) 11月30日の収穫量を変えた場合、収穫量の少ない樹ではやや糖度が高くなる傾向がみられた。</p> <p>(3) 着花率は、収穫量が少ないほど低くなかったが、30%収穫区と0%収穫区では着花率に大きな差は見られなかった。また、全面摘果区の100%収穫区で着花量が明らかに多くなった。</p> <p>(4) クレフノン3回散布区で浮皮果の発生が少ない傾向にあった。</p> <p>2) 技術・情報の適用効果</p> <p>完熟栽培をする場合M～S級果を中心に30%程度樹上に残し、クレフノン、フィガロンなどを散布すると、浮皮果の発生が少なく、翌年の着花量に影響がない。</p> <p>3) 適用範囲</p> <p>日当たり良好な園</p> <p>4) 成果の利活用・普及指導上の留意点</p> <p>日当たりをよくし、園内の乾燥に努め、M～S級果を中心に樹上には30%程度残すようにする。</p>	

## 2. 具体的データ

表1 収穫時（1月8日）果実品質調査及び次年度の着花率

処 理 区	糖 度	酸含量	果皮色	果肉色	浮皮果指数	着花率
枝別摘果区	(g/100ml)					%
30%収穫区	11.2	0.69	6.5	7.4	48.8	0.35
50%収穫区	10.9	0.75	6.4	7.4	43.4	0.51
70%収穫区	10.8	0.72	6.4	7.5	33.3	0.97
全面摘果区						
0%収穫区	11.1	0.69	6.4	7.5	60.0	0.37
100%収穫区	10.2	0.78				1.14

着花率 = (直花 + 有葉花) / 節数 : 100%収穫区は11月30日調査

表2 浮皮軽減剤処理と階級別果実品質

処 理	階 級	糖 度	酸含量 (g/100ml)	浮皮果指数	
クレフノン	2回散布	L	11.3	0.60	64.0
		M	10.9	0.65	40.0
		S	11.2	0.66	28.9
	3回散布	L	10.2	0.66	55.6
		M	10.5	0.72	28.2
		S	10.7	0.69	15.2
フィガロン	散布	L	10.9	0.76	70.0
		M	11.1	0.8	35.6
		S	11.6	0.82	25.6
無散布区		L	11.0	0.61	66.7
		M	11.0	0.66	60.0
		S	11.4	0.78	33.3

## 3. その他特記事項

担当部科名：常緑果樹科

研究課題名：温州ミカンの高品質果実生産技術の確立

研究期間：平成元年～3年

発表資料：平成元年、2年、3年度長崎県果樹試験場業務報告